

高千穂町の 神話史跡

① 高千穂神社

バスセンターから……1.0 km

御祭神は上古高千穂皇神(瓊々杵尊ほか日向三代)と申し上げ、別名十社大明神として親しまれている。11代垂仁天皇の御世の創建と伝えられ、続日本後紀等の六国史の記載では日向国最高位の神階を授かっている。平安時代末期には高千穂庄18郷88社の総社として特に、農産業・厄祓・縁結びの神として広く信仰を集めている。拝殿には国指定重要文化財「鉄造狛犬一対(鎌倉期作)」があり、境内に源頼朝の代参畠山重忠手植えの秩父杉(樹齢800年)がそびえている。
例祭日 4月16日

② くしふる神社

バスセンターから……0.8 km

天孫瓊々杵尊の天降り神話として、古事記に「筑紫の日向の高千穂の久志布流多気天降ります」とあり、峰の中腹に瓊々杵尊をはじめ、天児屋根命・経津主命等が祀られている。古記録によれば、往古は峰そのものを御神体としてお祀りしていたが、元禄7年に社殿を建立したと記されている。
例祭日 体育の日

③ 天岩戸神社

バスセンターから……8.0 km

天照皇大神がお隠れになった天岩屋戸を御神体としてお祀りする西本宮と大神をお祀りする東本宮がある。御神域である天岩屋戸の直拝は社務所にお問い合わせすれば神職の案内がいただける。
例祭日 西本宮 5月2日・3日
東本宮 9月22日・23日

④ 二上神社

バスセンターから……9.0 km

日本書紀の一書に「日向の襲の高千穂のくし日の二上峰に至りて」、日向風土記逸文には「臼杵郡の内、知鋪の郷…日向の高千穂の二上の峰に天降りましき」とあり、往古より天孫降臨の神山として知られる二上山に奥宮と里宮が建立されている。
例祭日 5月3日

⑤ 八幡大神社

バスセンターから……8.5 km

桓武天皇、延暦元年(782年)の創建と伝えられる。御祭神は神武天皇の母神玉依姫命境内には樹齢800年の国指定天然記念物「イチョウ」と「ケヤキ」のほか、那須大八郎が平家追討の途中参拝し植樹したという逆杉など珍しい巨木がある。
例祭日 5月5日、夜神楽 11月22日

⑥ 荒立神社

バスセンターから……1.5 km

天孫降臨の道案内をつとめた猿田彦と天鈿女命が結婚される時、周りの荒木で急いでお宮を建立したため荒立神社という。鎮座地は古くから興呂木の里といわれ、興梶一族の氏神として参拝されている。近くには天孫降臨の随神を祀る二十躰王宮がある。

⑦ 石神神社

バスセンターから……5.4 km

三毛入野命の使牛を社傍に祀ったという伝えがあり、俗に牛神大明神ともいわれる。
御祭神 国常立命
例祭日 4月21日

⑧ 高天原遥拝所・高千穂碑

バスセンターから……0.8 km

くしふる神社の南に連なる小高い丘で、天孫降臨後、諸神がこの丘に立って高天原を遥拝した所と伝えられる。中腹には、奈良時代から皇祖発祥の地と伝承された厳然たる事実を立証するため、風土記・万葉の古歌を刻した「高千穂碑」がある。

⑨ 四皇子峰

バスセンターから……0.9 km

神武天皇の御兄弟神(四皇子)誕生の地と伝えられ、御陵が祀られている。彦火火出見尊(瓊々杵尊の御子で山幸彦)の御子鵜鴨草葺不合尊は玉依姫と結婚され、五瀬命・稲水命・御毛沼命(三毛入野命)・若御毛沼命(狭野命)の四皇子がお生まれになっている。若御毛沼命は高千穂の宮で東征について五瀬命とご相談され、日向から筑紫、安芸、備後、熊野を経て大和に入られ、平和国家を築かれたという。

⑩ 天真名井

バスセンターから……0.5 km

天然の湧水で天孫降臨の時、この地に水がなかったため、天村雲命が再び天上に上がられ、水種を移されたといえられる。樺の老木の根本に今も天然水が湧き出ている。この地を訪れた北原白秋は、晩年の心情と神代川・天真名井の様子を歌に表し、高千穂峽にその短歌と長歌を刻んだ碑文が建立されている。

ひく水に麻のをひてて月まつは
清き河原の天地根元作りの家
白秋

⑭ 鬼が窟

バスセンターから……1.6 km

「谷が八つ峰が九つ戸が一つ、鬼の住み処はあらぎの里」と神楽歌に唄われる鬼八伝説の窟で、祖母岳大明神の娘鶉ノ目姫を無理やり奪い隠した所と伝えられている。

⑮ セツケ池

バスセンターから……2.0 km

十社大明神(三毛入野命)が御塩井(高千穂峽)を散歩されている時、水鏡に映る美しい娘鶉ノ目姫と逢われた所という。岩のうねりの間から泉酒が湧き出ると伝えられている。

⑯ 陣内遺跡

バスセンターから……1.5 km

県内唯一の土偶・石棒をはじめ、縄文時代後・晩期を中心とした多量の土器が出土している縄文時代の代表的な遺跡で、昭和51年に県の史跡に指定されている。陣内遺跡の特徴は多量かつ厚い土器の堆積であり、その状態が観察できるよう、土層の一部を剥ぎ取り現地展示している。(出土品はコミュニティセンター歴史民俗資料館に展示)

⑰ 国見ヶ丘

バスセンターから……7.5 km

雲海と阿蘇涅槃像(ねはんぞう) 神武天皇の御孫・建甕童命が国見をされたという伝説の丘で標高513m。秋の快晴、無風の冷え込んだ朝、雲海が高千穂盆地を覆う。見頃は日の出前後で、初冬まで見ることが出来る。ここから眺める阿蘇五岳はお釈迦様が横たわった姿に似ていることから、別名「阿蘇の涅槃像」と呼ばれている。国見ヶ丘は、涅槃像、雲海とともに神々しい山々が見渡せる絶好の展望ポイントとなっている。

⑱ 高千穂太郎の墓

バスセンターから……4.0 km

高千穂古今治乱記によれば、高千穂の郡主は三毛入野命の子孫が代々相継ぎ、50余代家系相続していたが、6代目に男子なく、平安末期に豊後の領主大神太夫太惟基の一男を貰い受け、嫡男太郎政次として家系相続したと伝えている。太郎政次は地名の高千穂を名字とし、その後高千穂氏は三田井氏とも名乗り、安土桃山時代まで高千穂庄の領主として君臨している。墓石には「捐館松翁永仙大禪定門神議」と刻してある。

⑲ 亀頭山城址

バスセンターから……18.5 km

亀甲形の形状が特徴の高千穂48壘三田井出城の一つ。文禄3年(1594)落城。篤志家により、休憩・展望所等が設けられている。

⑳ 龍泉寺地蔵堂

バスセンターから……8.5 km

開山は仁徳天皇82代後鳥羽上皇の第三皇子寒巖禪師(永平寺第四祖)と伝えられ、本寺格の名刹であったという。三度の大火にあっているが、御本尊(釈迦如来)・地蔵菩薩・十一面観音像は火難をのがれている。特に、地蔵菩薩坐像は桧材による一木調成像で、平安末期作の全国でも珍しい巨像である。火伏せ地蔵として尊信が厚く、旧暦1月24日の例祭には参詣者が後を絶たない。

㉑ 常光寺の滝

バスセンターから……16.5 km

標高1757mの祖母山から湧出する自然水が創り出す荘厳な滝。長寿の滝・白糸の滝ともいわれる。周囲の紅葉が色づく秋の景観は絶景である。

㉒ 竜ヶ岩の滝・四季見原

バスセンターから……15.5 km

上野川の上流、親父山林道沿いに高さ50mの龍ヶ岩の滝がある。自然造形の素晴らしさから、特に紅葉の時期は多くのハイカーで賑わう。上流には、モミ・ツガ等の大木が茂る原生林があり、標高1200mの四季見原は眺望に優れ、キャンプ場、パラグライダーのフライトエリアも完備している。

㉓ 官軍墓地

バスセンターから……1.6 km

西郷隆盛が高千穂に現れたのは明治10年8月21日のことである。可愛岳での戦いに敗れた薩軍の総勢はこの時2,000人と記録にある。三田井官軍墓地には、可愛岳での戦いや三田井病院で亡くなった官軍の陸軍兵士39名のほか軍夫7名が供養されている。

㉔ 浅ヶ部八十八ヶ所霊場

バスセンターから……3.5 km

天保6年、里の有志が四国八十八ヶ所霊場のご朱印をいただくとともに、土をもらい受け、八十八躰の石仏を四国と同じ配置で山里に安置し、開眼・開場している。このほかにも庚申塚等の野仏が点在し、歴史に彩られた生活信仰の息吹と田園風景、見渡す山並みは心の旅を満喫してくれる。

㉕ 天安河原

バスセンターから……8.4 km

天岩戸神社西本宮から岩戸川に沿って徒歩で約10分、天照皇大神が岩戸隠れのため天地暗黒となり、諸神がこの河原に集まり神議されたと伝えられる大洞窟(奥行き25m、間口30m)があり、別名「仰慕ヶ岩屋」とも呼ばれている。